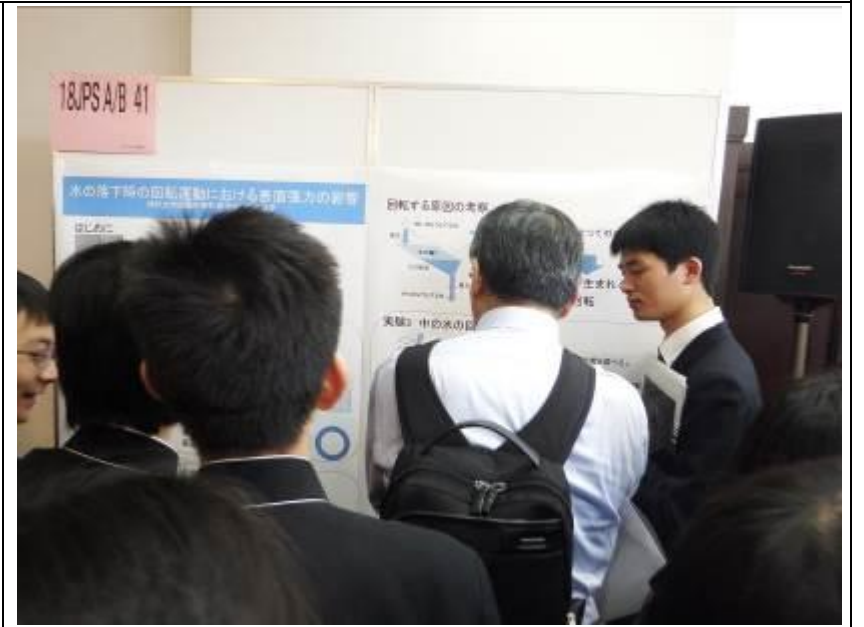
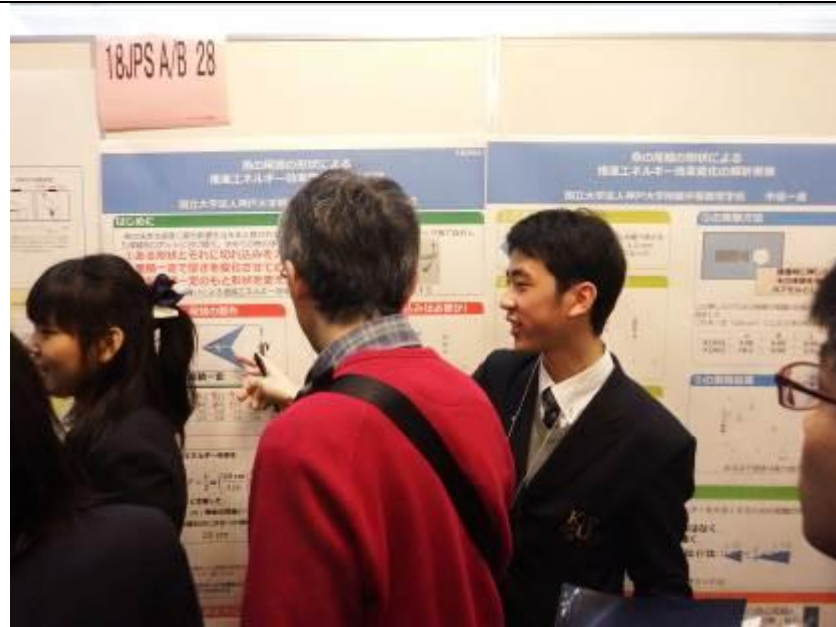
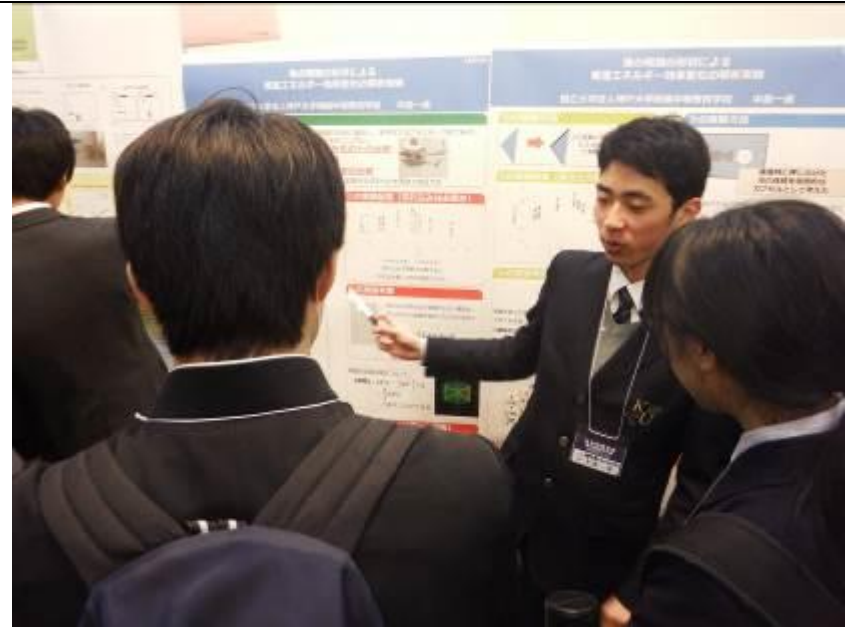


2016年3月18日(土)

震災・復興とリスクマネジメント ( ) 国際都市神戸と世界の文化 ( ) 提言：国際紛争・対立から平和・協調へ ( ) グローバルサイエンスと拠点都市神戸 (○) その他 ( )

### 日本物理学会第13回 Jr セッション参加

[概要] グローバルアクションプログラム「課題研究成果発表」の一つとして、日本物理学会年次大会内の第13回 Jr セッションに応募したところ、一次選考を通過し、3月18日(祝)に大阪大学豊中キャンパスで5年生1名、6年生1名が Kobe プロジェクトの研究成果を発表しました。校内の発表ではなかなか出てこない鋭い質問をたくさん受け、大きな刺激を受けました。



他の Jr.セッションに参加した中高生や、物理学専攻の大学院生・大学教員と 120 分の議論を交わしました。

#### 参加生徒の感想 (5年生徒)

物理学会は、僕を「歓迎」してくれた。コアタイムが始まり、ポスターの前で発表を始めた直後から質問の嵐。不十分な考察や、データの質など耳を塞ぎたくなる質問を浴びせられた。発表の最中は、今すぐに帰りたいと思うほど辛かったが、高校生の研究を一つの研究として批評してもらったことは非常にありがたいことだった。また、学会の専門家からの意見はとても貴重で参考になるものばかりだった。卒業研究には今回学んだことを反映し、次に参加するときにはより質の高い議論ができるようにしたい。

#### (6年生徒)

「“相手が見る”という客観的な視点に立って、伝わるデザインを意識すること。」これは、物理学会出場にあたり、先生からあらためて指導いただいたポスター作成のポイントでした。先生に指導を仰ぎながらの度重なるポスター校正には、かなりの時間を要しましたが、試行錯誤して取り組んだことは、貴重な経験となりました。学会当日は、日本中の各地域から専門分野の先生も来られ、いろいろな角度から深くディスカッションをすることができ、良い刺激を受けました。

私はこの学校で、あらゆるグローバルアクションプログラムに参加してきました。時には壁にぶつかることもありましたが、そのたびに、自分の成長を感じました。また、同時に自分の未熟さにも気づかされました。今回の物理学会への出場も自分自身への最後の挑戦でした。まだまだ学ぶべきことが多くあると痛感しました。これらを今後の課題として、これからも恐れることなく、チャレンジし、自分を磨き続けたいと思います。私に多くの機会を与えてくださった先生方、大変お世話になりました。